

持っていたものなのに なぜ持つ帰らないのですか



トリからのメッセージ 62



ハシブトガラス(カラス科)

全長56~余、翼をひろげると1㍍にもなる。
一般にカラスと呼ばれる全身黒色の鳥。

これによく似たものにハシボソガラスがいるが、
ハシブトガラスはハシボソより体、くちばしがひとまわり大きく、
頭とくちばしにはっきり段がついていてこと、くちばしが
細く見えることで区別できる。

ハシブトはカア、カア、カアときこえる澄んだ声。
ハシボソはガーワワ、ガア、ガアとごった、やや細い声。

62

「ゴミを出さない」は自然へのエチケット

この夏、自然の中であなたは上の絵のような光景を見かけませんでしたか。

いつも問題になり、そして、なかなか解決できないのが野山のゴミです。緑の山に築かれたもうひとつゴミの山――

それは、その場所に生きていた植物を殺すことです。食べ残し、捨てられた残飯は、ふだん、そこにはゴミのない動物たち――ドネズミや野犬を呼び寄せ、繁殖させ、その場所に棲んでいた生きものが何気なく捨てた人間のゴミによって生存を危うくしているとした

バランスをこわす原因になります。ただでさえ、きびしい自然界の掻^かき^かき^き^き^き^き^き^き中で生きている生物が何気なく捨てた人間のゴ

ミによって生存を危うくしているところもありました。

ゴミ対策に大切なのは、たったひとつ、ゴミを出さないという努力だけなのに。

「ゴミを持ち帰る」は自然へのマナー。ゴミは、今までなら埋めるとか燃やしてしまったとか、場所によつてはその場で始末することが許されたかも知れません。その自然の中へ入る人の数が少なく自然の復元力(もとへもどる力)も大きく、自然への影響が問題にならなければ許されるでしょう。しかし、いまはそういう自然は少ないし、人がたくさん入るので、野山で処理するのはムリと考へるべきです。

野山にゴミ箱を置くことで、そこに捨てられたゴミが、かえつてその地の自然に大きな影響を及ぼすことがあることは前にお話したとおりです。そこでいまは、野山にはゴミ箱を置かないといいう考え方定着しつつあり、私たちとしては、ゴミは持つて帰るという行動によって、美しい野山を提供してくれる自然にむくいようではありませんか。



法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財團法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリアルにて制作、次々月1回掲載しているものです。ご愛読ください。朝日・毎日・読売・サンケイ・中日・中国・山梨・日日・北海道・西日本・下野